

南山大学
総合型入試
[プレゼンテーション型]
問題集

2026年度

NANZAN
UNIVERSITY

目 次

《総合型入試〔プレゼンテーション型〕》

人文学部キリスト教学科	1
人文学部人類文化学科	3
経済学部	5
総合政策学部	8
理工学部	13
国際教養学部	18

<人文学部 キリスト教学科>

問1。

以下の文章から、トマス・アクィナスの秘跡 (sacrament) のしるし性、機能、因果性、効力の要旨を日本語で書いてください (700字程度) (60点)。

[Thomas Aquinas] assigns sacraments to the general category of signs (S. Th. q. 60, a.1c); "sacrament" is properly applied . . . to that which is a sign of a sacred reality inasmuch as it has the property of sanctifying men" (q. 60, a. 2a). With regard to the function a sacrament has in sanctification Aquinas argues that it is the "actual cause" of sanctification because it is an experience of Christ's passion, it is the "form" of sanctification because it endows the participant with grace and virtues, and it is the "ultimate end" which sanctification is to achieve, that is, eternal life. Aquinas shows his reliance on the liturgy of sacraments when he states that "as a sign a sacrament has a threefold function. It is at once commemorative of that which has gone before, namely the passion of Christ, demonstrative of that which is brought about in us through the passion of Christ, namely grace, and prognostic, i.e. a foretelling of future glory" (q. 60, a, 3c).

When Aquinas describes how sacraments as signs cause grace he distinguishes between two kinds of efficient causes, principal and instrumental. Since only God can produce the effect of sanctification . . . , he alone can be called a principal cause. Thus sacraments are instrumental causes; they work only in virtue of the impetus given them by the principal agent, God (q. 62, a. 1c). Through the use of material things (e.g. water) sacraments produce effects on that which it touches (washing) and in the soul of the person washed (grace). Sacraments do this by the power from Christ's passion (q. 62, a. 6c).

問2。

以下の文章から、秘跡を執り行う者の不徳は秘跡の効力を左右することがないというトマス・アクィナスの議論の神学を日本語で述べてください (500字程度) (40点)。

[According to Aquinas, sacraments] produce two effects: they are remedies for

<人文学部 キリスト教学科>

sin and “bring the soul to its fullness in things pertaining to the worship of God in terms of the Christian life as a ritual expression of this” (q. 63. a. 1c). This deputation to worship derived from initiation and orders is evidenced by a “spiritual character” (q. 63, a. 1c). For Aquinas sacramental character “consists in a certain participation in Christ’s priesthood present in his faithful . . . Just as Christ has the full power of a spiritual priesthood so his faithful are brought into configuration to him in that they share in a certain spiritual power relating to the sacraments and the things pertaining to divine worship” (q. 63, a. 5c). For Aquinas this character is spiritual, is granted in baptism, confirmation and orders and “remains indelibly in the soul.” This understanding of character leads him to consider the minister as instrument in sacraments through which God works as principal agent (q. 64. a. 1c). This distinction enables Aquinas to follow Augustine’s position that even evil ministers can confer sacraments; they can do so because they act in virtue of the power of God. Thus he is faithful to the prevailing doctrine of *opus operatum* (the value of the sacrament comes from the fact that the sacramental rite is “done” independent of the dispositions of the minister (q. 64, a. 5c).

出典 : Kevin W. Irwin, “Sacrament” in *The New Dictionary of Theology*, eds. Joseph A. Komonchak, Mary Collins, and Dermot A. Lane (Wilmington, Delaware: Michael Glazier, Inc., 1987), 915-917.

省略の説明 :

「S. Th.」は *Summa Theologica* であり、日本語では『神学大全』です。

「q.」は question であり、日本語では「問」です。

「a.」は article であり、日本語で「条」です。

2026年度南山大学総合型入試[プレゼンテーション型] (第2次審査) 問題
「小論文」 時間 60分 配点 200点 (2025年10月18日実施)
<人文学部人類文化学科>

以下の文章を読み、【問1】と【問2】に解答しなさい。

学校教育では、何かを調べてまとめる学習のことを「調べ学習」といい、課題を設定し、情報を収集し、それを整理・分析し、まとめて表現する、一連の問題解決的な学習活動を「探究的な学習」という。探究的な学習は、「探究学習」や「探究型学習」と呼ばれることもある。

(中略)

これらの学習には、探究の題材や調べる方法の宝庫である学校図書館の活用が効果的である。また、学校図書館は学習成果を発表する活動をおこなう場ともなり、学習を支えている。

学校図書館活用で重要なことは、調べたり探究したりする方法を相談できる図書館員の存在である。有益な情報につながる情報は年々複雑になっている。調べるためのツールが揃っていても、子どもには調べ方がわからない場合が多い。また、教員も図書館員の支援によって、深い情報へと導かれて、よりよい授業をつくることができる。図書館員が関与することによって、子どもも教員も情報に深くつながることが可能となり、それがよりよい学習効果を生むのである。

探究的な学習には調べる学習も含まれるため、探究的な学習の四つの側面に沿って、具体的な実践方法を紹介する。

①「課題の設定」—学習の最初の段階では、子どもの興味・関心と本や情報の内容とをつなぐことが重要である。子どもの頭のなかにぼんやりとした興味・関心があったとしても、それが調べたり探究したりする題材にならないことも多い。その時に、図書館員などが本を読みきかせたりブックトークしたり、関連する資料のリストやパスファインダー(注1)を作成したりすることで、本の世界についていくことがおこなわれている。

たとえば、地球環境を考えるような壮大なテーマの際に、簡単な絵本などを導入として興味・関心をふくらませることができる。最初は関心がない題材のブックトークであっても、しだいに目を輝かしていく子どもの姿も見られる。

②「情報の収集」—多様な情報源のなかから効果的かつ効率的に調べる方法や、それぞれの情報源のもつ特性について教える。

東京学芸大学附属世田谷小学校の低学年では、図鑑の目次や索引をたどり、調べたいことを見つける学習を学校図書館でおこなう。調べたいことが見つかり、「これだ!」「書いてあった!」と喜びの声があがるそうである。さらに、百科事典の内容をまとめてワークシートに記入する学習もおこなわれている。これらひとつひとつの学習が調べ学習や探究的な学習の基礎となっている。

また、近年では、本から調べる学習を土台として、インターネットの利用法や情報の評価方法などを教えることも増えている。子どもたちがあふれる情報におぼれることなく有益な情報にふれるためには、必要不可欠な学習と考えられる。

③「整理・分析」—子どもたちは、見つけた情報源をじっくり読みながら考えを深めていく。批判的に読むこともとめられている。そこで、小説などの物語を読む場合と、情報を探しながら読む場合とでは読みかたが異なることを教える場合もある。本や情報と子どもをより深くつなぐために意識された支援といえる。

④「まとめ・表現」—調べたことをまとめる段階である。学校図書館では、レポートやスライド、ポスターや壁新聞など、まとめかたを提示する。また、模造紙、色紙、ポスターカラー、ハサミ、のりなどの文房具をそろえて、いつでも表現できるように場を整えることも多い。表現活動を学校図書館でおこなうことで、たりない情報に気がついたら、その場で本などを手にとって追加調査ができる。この場面では、さらに深い情報につながっていく子どもの姿が見られる。

これらの学習には、物事に興味・関心をもつことや調べる力だけではなく、調べたことを読む力も必要である。それらは、普段からの読書で培うことができるにちがいない。ひとりでじっくりおこなう読書から、集団で楽しんでおこなう読書まで、幅広い読書への支援を常におとなが責任をもっておこない、子どもの読書の習慣をつくっていく必要がある。

このように、子どもと読書をつないで読むことに親しませることは、探究的な学習や調べ学習を成功させるための第一歩ともいえよう。

(出典：桑田てるみ「探究的な学習・調べ学習」汐崎順子(編)『子どもの読書を考える事典』朝倉書店 2023)

(注1) パスファインダー：図書館で特定の内容に関する調べ物をするときの簡単な手引き

【問1】

本文の記述を元に、「調べ学習」や「探究的な学習」における学校図書館の役割を 200 字程度で要約しなさい。

【問2】

学校教育で「調べ学習」や「探究的な学習」を行う必要性や意義について、現代社会の特性を踏まえて、あなたの考えを 1000 字程度で述べなさい。

2026年度南山大学総合型入試[プレゼンテーション型] (第2次審査) 問題

「小論文」 時間 90分 配点 200点 (2025年10月18日実施)

<経済学部 経済学科>

次の2つの記事を読み、続く4つの問に答えよ。ただし、解答は解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

記事1 (青木浩介「物価高と財政・金融政策(上) 全体は緊縮で支援的絞れ」日本経済新聞 朝刊 15ページ、2025年8月25日。ただし、一部改変。)

現在のマクロ経済学の知識では、物価安定のために最も有効な政策手段は金融政策だ。実際、多くの国や地域では、中央銀行が物価の安定を担う政策機関と位置付けられている。

日本では、日本銀行が2%のインフレ目標を達成するために金融政策を担っている。現在、多くの中銀の主要政策手段は名目利子率の操作であり、それを通じて経済全体の需要量を制御し、物価の安定を図る。インフレ率を抑えたい場合、通常処方箋は利上げだ。

中銀が名目金利を上げると、銀行預金や貸し出しなど様々な利子率が上昇する。利子率が上昇すると、住宅投資や設備投資など利子率に感応的な支出が減る。また貯蓄の利回りが良くなるので、人々は預金を増やして支出を減らすかもしれない。

さらに利子率の上昇はお金を借りている人の利払いを増やすが、お金を貸している人は受け取る利子が増える。つまり利上げは債務者から債権者への所得の移転を促すことになる。

一般的に債権者は債務者に比べ、所得が増えた場合も支出をあまり増やそうとしない。よって利子率上昇によって債務者から債権者へ所得が移転すると、全体として消費が減少する。

これらの経路を通じて人々や企業が支出を抑制すると、経済全体の需要と供給がバランスし、物価の上昇圧力が弱まる。また自国の金利が上昇すると、国債など自国通貨建て資産の魅力が高まるので、自国通貨を買う動きも生じる。日本ならば円高方向に為替レートが調整され、輸入物価の上昇を抑える効果がある。

これらが金融引き締めによる効果の教科書的な説明だ。大事なことは、金融政策が経済全体の需要の抑制を通じて物価上昇を抑える点だ。

ただ利上げは需要の抑制を通じて物価に働きかけるので、人々に痛みを強いる政策であることもわかる。

そもそも物価高の重荷は全ての人に等しくかかるわけではない。裕福な人は株や不動産などインフレに強い財産を持っているかもしれないが、多くの人々の主要な所得源は賃金であり、財産は銀行預金だ。急な物価高は賃金の伸び率がインフレ率に追いつかない場合、実質賃金を減らす。また銀行預金の利子率がインフレ率を下回る場合は預金の実質価値も減らす。

つまりインフレの痛みは、豊かな人々よりも所得の少ない人々や年金や預貯金に頼る老年層にとって大きい。その上に緊縮的な金融政策によって経済全体の需要を減らせば、物価高で困窮した人々ますます困窮するかもしれない。これは極めて重要な問題だ。

物価高による非対称な痛みを和らげるために求められる政策は何だろうか。ここまで頼みとしてきた金融政策は、経済全体の需要量にしか影響を及ぼせない。したがって困窮層だけに絞って支援するのは困難だ。

同様に、金融政策は昨今問題になっているコメなど特定品目の急激な価格上昇に対処するのも難しい。金融政策は総需要を通じて一般物価に働きかける。原理的には利上げによってコメの価格上昇を

<経済学部 経済学科>

抑えることはできるが、そのような政策は総需要を過剰に減少させ、大きな社会的コストがかかってしまう。たとえば総需要の減少は雇用の減少を伴うが、その影響を強く受けるのは所得の少ない層や若年層である。

記事2 (宇南山卓「個人消費低迷脱却の条件(下) 現役世代重視した再分配を」日本経済新聞 朝刊 15 ページ、2024年3月25日。ただし、一部改変。)

経済学では、消費がどのように決定されるかをライフサイクル理論と呼ばれる枠組みで考察する。現代マクロ経済学の基礎となる考え方で、合理的な個人の行動を描写した理論だ。消費にまつわる多様な現象を一貫して分析する応用可能性を持ち、現実を説明できる妥当性があるとされる。

ライフサイクル理論における消費の決定では大きく2つの前提を置いている。第1に人間は消費の変動を嫌うという前提だ。多くの人はある時点でぜいたくをしつつ別の時点では貧困に苦しむよりも、一定の生活水準を保つ方が望ましいと考える。「アリとキリギリス」で言えばアリの人生の方が望ましいと考える性質であり、経済学の考える「人間の普遍的な性質」だ。

第2に家計は予算制約に直面しており、生涯を通じた合計の消費は利用可能な経済資源の量(生涯可処分リソース)の範囲に限定されるという前提だ。生涯可処分リソースとは、預金などの手持ちの資産や現在の所得に加え、受け取り予定の将来の賃金や年金なども含む「自分が使えるお金」だ。これを人生のどのタイミングで使うかを定めることこそが消費の決定だ。

この2つの前提から導かれる「最適な消費行動」とは生涯可処分リソースを一定のペースで使う行動だ。単純化すれば、各時点での消費は生涯可処分リソースを生涯の長さで割ったものになる。例えば大卒の平均生涯賃金はおおむね3億円で、それを使い20歳から80歳まで生きるとすれば、年齢によらず毎年500万円を消費するのが望ましい。

ライフサイクル理論が妥当だとすれば、消費低迷の原因は生涯可処分リソースの低迷ということになる。すなわち、足元の経済状況のみならず、もっと長期的な要因が消費に影響を与えているはずだ。特に勤労者世帯で消費の落ち込みが大きいということは、現役世代にとっての最大のリソースである将来の所得が低迷している可能性が高い。これは、人々が今後の経済成長に悲観的な期待をもっていることを示唆する。

こうした構造を前提にすれば、消費回復のために政府ができることは少ない。特に、近年繰り返される消費刺激策には効果がない。消費刺激策は古いケインズ的な考え方では常識的な政策だが、政府からの所得移転は生涯を通じて平準化して使われるため、消費には大きな影響を与えない。

特別定額給付金のように日常的な感覚では高額な所得移転でも、生涯可処分リソース全体と比較すれば無視できる程度に小さく、結果として消費もほとんど変化しないと考えられる。実際、特別定額給付金には大きな効果がなかったことがいくつかの研究で示されており、今回の定額減税の効果も期待できない。

政府が消費を拡大させたいのならば、一時的な所得移転ではなく持続的な所得の上昇が鍵になる。その意味では「インフレを上回る賃上げ」の方向性は正しい。ただし大切なのは今年の賃上げ幅ではなく、来年、再来年と賃上げが続くとの期待だ。着実な経済成長が必要な方向であり、その達成に近道はない。効果の薄い政策で資源を浪費すれば、むしろ将来の増税を予想させ消費を冷え込ませる。

2026年度南山大学総合型入試[プレゼンテーション型] (第2次審査) 問題

「小論文」 時間 90分 配点 200点 (2025年10月18日実施)

<経済学部 経済学科>

- 問1. 記事1は、物価高の状況に対する金融政策の効果について述べたものである。その内容を200字程度で要約しなさい。
- 問2. 記事2は、ライフサイクル理論と、消費低迷に対する政策のあり方について述べたものである。その内容を200字程度で要約しなさい。
- 問3. 記事1の内容をふまえ、物価高対策に関するあなたの考えを、300～400字で述べなさい。
- 問4. 記事2の内容をふまえ、消費低迷への対策に関するあなたの考えを、300～400字で述べなさい。

<総合政策学部 総合政策学科>

以下の記事(2点)と図(3点)をよく読み、2つの問いに答えなさい。

【記事1】

社説：戦後80年 「文化国家」の現在地 豊かさの意味を考える時

(中略)

◇振興の努力怠った政府

戦争に敗れた日本が目指したのが、自由で平和な「文化国家」であった。

1956年11月3日、日本国憲法公布記念式典の勅語で言及された。翌年の施行時には吉田茂首相が、国民は「民主主義に基づく平和国家、文化国家として再建する重大な責務を持っている」と述べた。

全体主義によって、個人の権利がないがしろにされたことへの反省に立った言葉だ。文化の発展を通じて、個人の幸福の実現を目指そうという意思の表明だったのだろう。

だが、戦前・戦中に文化が国策に組み込まれていったことへの教訓から、芸術を振興する政府の取り組みは極めて限定的だった。1968年に文化庁が誕生したが、当時は文化財保護に主眼が置かれた。

高度経済成長期には物質的に豊かになり、国民の生活水準も上がった。それに伴い、国や国民の意識にも変化が表れる。

「経済成長をただけで幸せになれるわけでも、世界に認知されるわけでもないということがわかってきた」。演劇活動を通して社会批評をしてきた演出家、鈴木忠志さんは振り返る。

生活にゆとりが生まれる中で出てきたのが、「モノからココロへ」と言われた精神的な豊かさを求める志向だった。

1978年に就任した大平正芳首相は施政方針演説で「物質文明自体が限界にきた」と、経済中心の時代から文化重視を目指す時代になったとの認識を示している。

大平氏が委嘱した研究会は1980年の報告書で、政府は文化振興政策を確立する「努力を怠ってきた」と指摘し、文化予算の割合を0.1%から0.5%程度に引き上げるべきだと提言した。だが、政策への反映は十分とは言えない。

2001年には、文化振興に政府が果たす役割を明確にした文化芸術振興基本法が制定された。文化予算は2003年度に1000億円を初めて超えた。しかし、国の予算に占める割合は0.1%前後で推移し、フランスの8分の1、韓国の10分の1にとどまっている。

◇経済だけで測れぬ価値

転機となったのは、2012年の第2次安倍晋三政権発足だ。アベノミクスの成長戦略の一環として、経済的効果の観点から文化の価値を測る傾向が強まった。

政府は、海外売り上げで半導体産業などと肩を並べるアニメやゲームなど「エンタメ・コンテンツ産業」の海外展開を後押しする。背景には製造業などの国際競争力が低下したこともある。

その方向性は石破茂政権にも引き継がれている。

だが、文化の価値は経済面だけではないはずだ。

鈴木さんは文化政策を「精神の公共事業」だと説く。国や自治体が道路や橋を造ることで市民生活の向上を図るように、文化芸術振興は日常に潤いをもたらす、心の豊かさを養うことにつながる。

民間が文化活動の中軸を担ってきた歴史にも目を向けたい。江戸時代は、厳しい幕府の取り締まり

2026年度南山大学総合型入試[プレゼンテーション型] (第2次審査) 問題

「小論文」 時間 90分 配点 200点 (2025年10月18日実施)

<総合政策学部 総合政策学科>

にあいながらも庶民が文化を育んだ。明治維新以降も、海外から技術や文化が流入する中で、築地小劇場や宝塚少女歌劇が生まれた。

内閣府の世論調査によると、「経済的繁栄」を誇りに思う人の割合は1991年に27.1%、「すぐれた文化や芸術」は29.7%だった。だが2023年には、それぞれ5.0%、47.5%となり、文化芸術に重きを置く人が増えている。

文化は、人々に享受され、支持されることによって発展する。どのように守り、次世代に継承していくか。いま一度、国民一人一人が役割を見つめ直す時だ。

(出典) 毎日新聞 2025年2月23日 朝刊 5頁

注：出題にあたり、数字や西暦、小数点の表記を改めた

【記事2】

クールジャパン まだ押す？ 旗振り役 累積赤字356億円

(中略)

「クールジャパンを『リポート』（再起動）すべき時期が到来した」

約50ページに及ぶ「新たなクールジャパン戦略」はこんなひと言で切り出された。

広辞苑や大辞林によると、「再起動」「リポート」は「コンピューターを起動しなおすこと」。クールジャパン戦略を担当する内閣府知的財産戦略本部の担当者は「アニメやゲームなどのコンテンツは伸びてきている。一からやり直す『リセット』ではなく、さらに伸ばす、加速させるイメージ」と解説する。

クールジャパン政策は漫画、アニメに代表されるような日本ならではの製品やサービスを海外に売り込み経済成長につなげようという政策。日本経済を支えてきた製造業などに陰りが見える中、潜在的な競争力はあると注目されていた。

力を入れたのは第2次安倍政権。2012年12月に担当大臣を置き、成長戦略の一環として推進した。

政治ジャーナリストの角谷浩一氏は「麻生政権時代にアニメや漫画の国立ミュージアム構想もあった。第2次安倍政権では成長戦略の目玉になりそうだとみて取り込んだのだろう」と語る一方、「政府が仕掛けなくてもコンテンツの魅力があればファンは飛び付く。政策の効果はどこまであったのか」と述べる。

内閣府によると、アニメやゲームなどコンテンツ事業の海外展開規模は2022年時点で4.7兆円。この10年で約3倍になり、順調に拡大している。ところが、旗振り役として2013年11月に設立された官民ファンド「海外需要開拓支援機構（クールジャパン機構）」の累積赤字は356億円（2023年3月）に達し、近年は統廃合まで議論されてきた。

こうした中での新戦略。内閣府の担当者は「ゴジラー1.0（マイナスワン）がアカデミー賞で注目されるなど、コンテンツの人気は相変わらず高く、訪日客も順調に伸びる。コロナ禍が明けたことで今回、改めて戦略を作った」と話す。

特に重視するのはコンテンツ産業。4.7兆円の海外展開規模を2033年までに約4倍の20兆円に引き上げる目標だ。経団連が昨年に提言で示した「2033年に15兆～20兆円」を踏まえたほか、海外でも伸びの予測がある点を考慮したという。先の担当者は「ちょっと高めかも」と言う一方、達成のた

2026年度南山大学総合型入試[プレゼンテーション型] (第2次審査) 問題

「小論文」 時間 90分 配点 200点 (2025年10月18日実施)

<総合政策学部 総合政策学科>

めに必要な政策を問うと、作品のデジタル化や多言語翻訳、クリエイターの労働環境の整備などを挙げた。

ただこれらはこれまでも取り組んできた課題でもある。とりわけ労働環境では、アニメ制作の多重下請け構造など長年の懸案とされながら解決されていない問題もある。有効な手を打てるのか。担当者は「確かに一気に解消とはいかないかもしれない」と認める。

野村総合研究所の木内登英氏は「既に日本のコンテンツは海外で受け入れられている。そこから『10年で4倍』というのはかなり野心的な目標」と指摘する。

「うまくいけばインバウンド（訪日客）も増える可能性があるが、どう達成するか、具体的な政策の中身が問題だ」

「これから回収」 内閣府楽観 「バラマキ繰り返すな」 「口出さぬ投資が原則」

クールジャパンの新戦略を見ると、これまでの取り組みについても前向きな評価が目立つ。象徴的なのが前出の官民ファンド、クールジャパン機構の評価だ。

356億円に上る累積赤字を出したのに「需要開拓を行うための店舗拠点などに出資などを行ってきた。このような取り組みにより、波及効果や呼び水効果など全体として政策的効果は果たしている」と楽観的。機構の役割として「民間だけでは十分に集まらない中長期的なリスクマネーを必要とする案件に投資を行っている」とし、今後も「萎縮せず取り組むべきとの意見がある」と言及した。

内閣府の担当者は「官民ファンドの性格上、もうけを出すのは難しい。これまでは投資段階で、これから回収に入る」と釈明する。

政府の反省は、果たして足りているのか。

「今までのクールジャパン戦略に何もいいことはなかった」と厳しい評価を下すのは作家の古谷経衡氏。「日本のアニメや漫画、ファッションなどを海外に売り込もうとするのは分かるが、関わる政治家や官僚がそれらのユーザーでないのが問題。売り込む商品が好きでもなく、興味がない人たちに何ができるのか」

(中略)

クールジャパン戦略で政府はアニメなどの特定分野を支援しようとする一方、国立科学博物館が運営費用をクラウドファンディングで募る現実もある。

ジャーナリストの津田大介氏は「近年はよく韓国と比較されるが、日本の文化予算は国際的に見ても圧倒的に少ない」と訴える。

「やるのであれば小手先の支援ではなく、文化全体への投資が必要。法整備などを進め、個人のクリエイターが安心して創作に専念できる環境づくりをどこまで本気でやるかが重要だ」

ただ、政治や行政と文化芸術の距離感も課題だ。

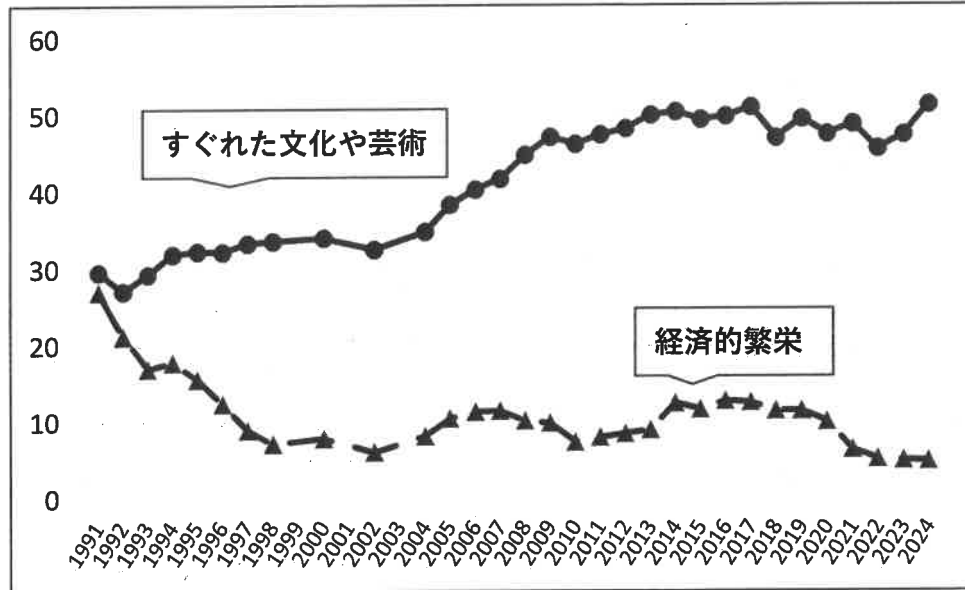
自身が芸術監督を務めた2019年の「あいちトリエンナーレ」が展示内容への批判から、文化庁の補助金が一時不交付とされた経験からこう強調する。「カネを出しても口を出さないというのが原則だ。この原則を機能させることが創作に資することになる」

(出典) 中日新聞 2024年6月19日 夕刊 3頁

注：出題にあたり、数字や西暦、小数点の表記を改めた

<総合政策学部 総合政策学科>

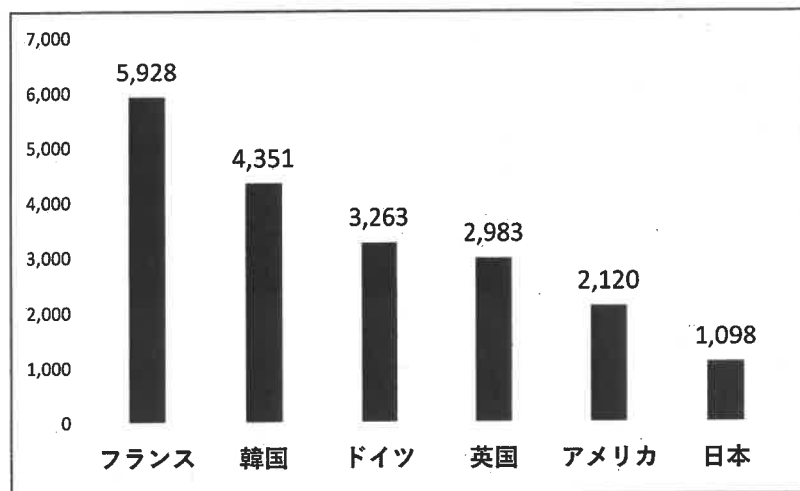
図1 「経済的繁栄」「すぐれた文化や芸術」を誇りに思う人の割合の推移 (1991年～2024年、単位：%)



出典：内閣府「社会意識に関する世論調査」より作成

注：「あなたは、日本の国や国民について、誇りに思うことはどんなことですか」という質問に対する回答。複数ある選択肢から好きなだけ選択する形式で、そのうち「経済的繁栄」「すぐれた文化や芸術」を選択した人の割合を表示

図2 文化歳出予算額の国際比較 (2022年、単位：億円)

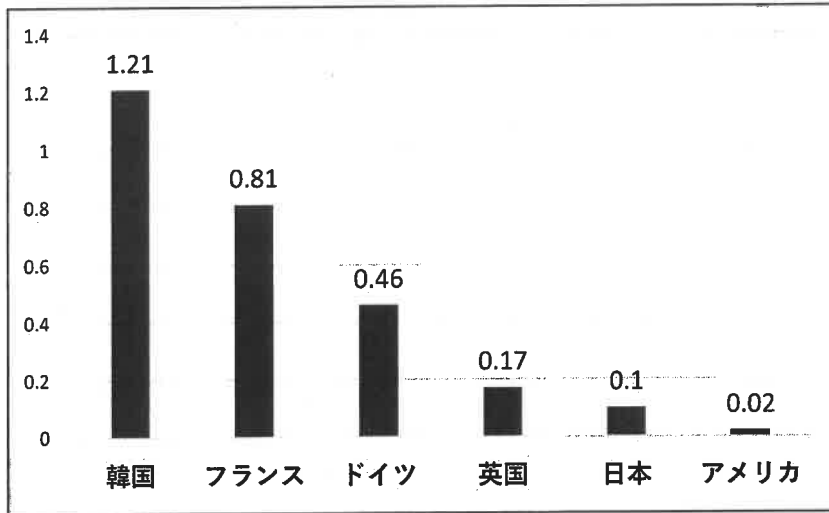


出典：文化庁「文化芸術関連データ集」より作成

注：為替レート：「関税定率法第4条の7に規定する財務省令で定める外国為替相場」(適用期間：令和4年12月18日から令和4年12月24日まで)を適用。£1=¥166.53、\$1=¥136.38、€1=¥143.35、1ウォン=¥0.1040

＜総合政策学部 総合政策学科＞

図3 政府予算に占める文化予算の割合 (2022年、単位：%)



出典：文化庁「文化芸術関連データ集」より作成

問1

記事1～2と図1～3から日本における文化政策の変遷と現状を整理しなさい。その際、文化政策をめぐる論点を明確にした上で整理すること。(500字～600字)

問2

問1で整理した日本の文化政策の現状を前提に、日本での文化政策はどのような方向へ進むべきだと考えるか。記事1～2と図1～3にも適宜触れながら、自分の考えを論述しなさい。(500字～600字)

なお、問1と問2は、同じ原稿用紙1枚のなかに続けて回答せず、別の原稿用紙を用いること。

また、アラビア数字を使う場合には原稿用紙の1マスに2文字まで記してよい(たとえば、「2024年」と書く場合の「2024」は4マスではなく2マス、「51.4%」と書く場合の「51.4」は4マスではなく2マス)。

<理工学部>

問題1と問題2の両方に答えなさい。問題1は1ページに、問題2は2ページから5ページにある。

問題1

次の(1)~(3)に答えなさい。

(1) 方程式 $x^3 - x^2 - x + 1 = 0$ を解け。

(2) 数列 $\{a_n\}$ は次を満たす。

$$a_n = 2, \quad a_{n+1} = \frac{a_n}{1 + a_n} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

$\{a_n\}$ の一般項が $a_n = \frac{2}{2n-1}$ であることを、数学的帰納法によって証明せよ。

(3) 関数 $y = \frac{2x}{x^2 + 1}$ の増減を調べて、極値を求めよ。

問題2

以下の2つの章からなる文章を読み、それに関する問1と問2に答えなさい。なお、問1と問2は、同じ原稿用紙1枚のなかに続けて回答せず、指定された別の原稿用紙を用いること。

第1章：なぜプログラミングか？

なぜ、プログラミングなのだろうか？ここでは思い付くものを挙げてみる。

ソフトウェア開発者が必要(V1)：今日では世の中のあらゆるところでコンピュータが使われており、これら多数のシステムを動かすソフトウェアを誰かが書かなければならない。そのような職に就く人は当然、プログラミングを学ぶ必要がある。

仕事の一環としてプログラミングが必要(V2)：コンピュータの広範な普及の結果、ソフトウェア開発者でなくても、自分の仕事のために必要なプログラムを作成することが増えてきている。今後ますます、プログラミングを学んでいなければ就けない職業が増えると思込まれる。

ソフトウェア技術者との連携のため(V3)：ソフトウェアを発注するなどのかたちでソフトウェア技術者と連携する必要のある仕事は多い。そのような場合に、技術者と有効なコミュニケーションをとり、効果的な開発を行うには、プログラミングの経験や理解が有効だと考えられる。

コンピュータの原理理解のため(L1)：コンピュータの本質が何であり、何ができて、なぜ今日のように広まったのかについて真に理解するには、自分でプログラムを書いて動かす体験が必要である。これは、既存のプログラムを使うだけでは「そのプログラムでできること」しかできないのに対し、自分でプログラムを書くことはある意味では自分がコンピュータになることであり「コンピュータができることは可能性として何でも作れる」からだと考える。

論理的思考を身に付ける(L2)：コンピュータはプログラムの指示通りに動作するので、プログラムを書く際には起こり得るすべての場合を想定し、それぞれの場合について厳密に動作を記述する必要がある。このため、プログラミングを経験することは筋道立てて系統的に考える練習となる。

問題解決と能動学習の題材として(L3)：コンピュータは強力なツールであり、多くの問題に「解答を導く」「人間に代わって作業をしてくれる」という両面から解決策を提供し得る。このため、プログラミングを通じて自分が持つ問題を解決することを（自分の問題としての～能動的な）学びの題材としやすい。

答えが1つだけでない題材として(L4)：我が国の初等中等教育は（特に大学受験前後で）「想定された唯一の正解を当てる」ことに偏重し過ぎており、これが個人が社会に出て答えのない問題に取り組む際の妨げになっている。プログラムは同じ動作を実現する複数の記述が可能であり、「解の多様性」を身を持って学べる題材である。

自己実現／表現の手段として(E1)：自分で考えてプログラムを作ることは、自分のアイデアを表現しかたにすることであり、強力な表現手段である。そしてプログラムを完成させることは、自信や達成感をもたらしてくれる。

もの作りと創造力のため(E2)：ソフトウェアは実際に動いて役立つものなので、プログラミングは（コスト・安全性・場所・機材・身体能力等に大きく制約されることなく）もの作りの活動が行える題材

<理工学部>

となり、創造力を育む機会を提供してくれる。

思考を外部化した成果物として(E3)：プログラムは「自分が考えたこと」を厳密かつコンパクトに外部化したものであり、それを自分や他人が見て検討することは「個人が考えたことを論理性・客観性を持ってグループで検討する」経験となる。

楽しく熱中できる題材として(X1)：人間は楽しんで熱中するとき最もよく学ぶ。プログラミングはコンピュータに指示して思い通りに動かすという点で、多くの人にとって楽しく熱中できる題材であり、熱中して学ぶ貴重な体験を提供してくれる。

試行錯誤の経験を積む場として(X2)：実社会における課題には、少し考えただけでは解決せず、さまざまな可能性を試行錯誤していく必要があるものも多い。プログラミングは、他人に気兼ねせずいくらでも失敗してみられる場として、貴重な試行錯誤の経験を与えてくれる。

上記は大まかに「職業的必要性(V1~3)」「教養(L1~4)」「表現力・創造力(E1~3)」「価値ある体験(X1~2)」に分類できる。筆者はいずれも今後の我が国を担う人たちにとって欠かせないことだと考えているが、実際にプログラミング教育/学習を実現するには、漫然と全部を目指すのではなく、これらの理念・特質のうちどれ(複数でもよい)に力点を置くかを決め、それに合わせて設計・配慮する必要がある。

第2章：目標は「離陸」

本章ではプログラミング教育/学習を行う際の具体的な目標設定について検討する。筆者はこれまでにさまざまなプログラミング教育/学習の活動を(直接・間接に)見聞してきたが、それらの中で「うまく行っていない」と思えたものはおおむね、次のような特性があったと感じている。

- (a) プログラミング言語の文法や機能を逐一、順番に説明していく。
- (b) 1つ例題を選んで丁寧に説明し、試験もその例題から出す。
- (c) 例題をその通りに打ち込んで動かすことだけに注力する。

(a)については、そもそもプログラミング言語のテキストは言語を機能別に説明していくことが普通なので、そのようなテキストを教科書として採用し、その順番で説明していくと自然にそうになってしまう。すると学生はその説明を暗記して試験に対応しようとするので、プログラムを書くということにはあまり意識が行かず、書けるようにならない。

(b)はこの「書けるようにならない」問題を克服しようとして生まれたように思える。しかしこの方法だと、学生はその1つの例題の字面と説明を暗記して試験を乗り切ろうとするので、その例題の「再現」だけではできても、自力でコードを書くことはおぼつかなくなりやすい。

(c)は、プログラミングに対してあまり多くの経験を持たない者が教える場合に、コードの内容やその意味を十分説明できないので、学んだというかたちを作ることに注力する結果、起こりやすい。この場合も学生はコードを十分に理解していないので、書けるようにならない。

<理工学部>

これらの知見から、筆者はプログラミング教育/学習においてはまず次のことを目標にするべきだと考えるようになった。

離陸：自分の手でコードを書いて動かし、結果を見て手直しできるようになる。

なぜ「離陸」が大切かという、これができれば(手直ししたものをさらに動かして…と続くことで)自力でコードを改良していけるからである(図1)。前章で挙げた項目の大半は「離陸」していて初めて成り立つものであり、この意味でも「離陸」が最重要な目標だといえる。これは前記のような状況を考えると、野心的な目標に思えるかもしれないが、決してそうではない。

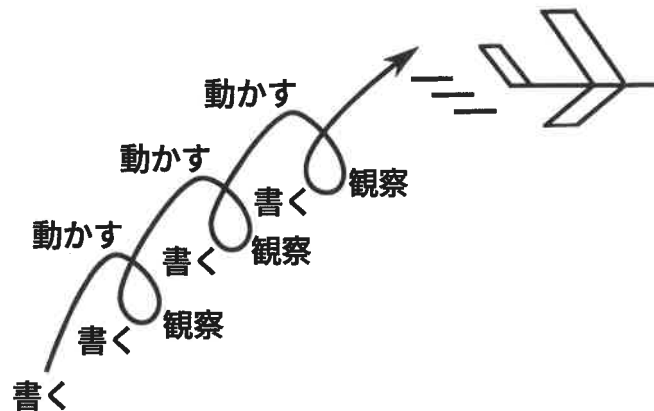


図1 「離陸」の概念

たとえば、2~3個の数値を入力し、それを元に計算を行い、結果を表示する、という数行のコードであっても、「どのような計算をするのか」については無限の選択肢があり、コードの書き手がその中から「自分の意思で」選択している。授業の場面でそのことを指摘し、実際にさまざまな計算を行うように求め、学ぶ側が実際にあれこれ試して意外な結果に遭遇し、コンピュータの杓子定規さに触れることで「離陸」が実現できると考える。

一度簡単なコードで「離陸」が実現できたら、その状態を維持しつつ、制御構造、関数など、次第に高度な(そして「離陸」している者にとって使い度がある)機能に進んでいくのがよい。その場合、それらの機能を使うことで自然にこなせる課題を示し、自分で試しながら(唯一の正解ではなく)自分なりの解に到達することを求めることで、「離陸」を維持していけるというのが筆者の経験である。

このような報告に対し、「学生による違いが大きく、全員にとって適切な課題を出すのは困難」という指摘を受けることがある。これについては筆者は、各段階においてやさしいものから高度なものまで複数の問題を用意し、学生に選択してもらっている。

そうすると常にやさしい課題ばかり選ばれないかという危惧もあると思うが、学生も学ぶことの価値や大切さは認識しているので、「自分が学んで成長するためには適切な水準の問題を選ぶことが大切」であることを呼びかければ十分従ってもらえるというのが筆者の経験である。

2026年度南山大学総合型入試[プレゼンテーション型] (第2次審査) 問題

「小論文」 時間 90分 配点 200点 (2025年10月18日実施)

<理工学部>

出典：久野靖 「プログラミング教育／学習の理念・特質・目標」 『情報処理』 Vol.57, No.4, 2016年4月。入試問題にあたり，一部抜粋，変更した。

問1 筆者はプログラミングを学ぶことの意義を，いくつか挙げている。理工学部では入学するとプログラミングを学ぶことになるが，自分自身がプログラミングを学ぶことの意義はどのようなことであるか，筆者の意見や自分の経験，この文章が9年ほど前に書かれたものであることなどを踏まえて，400字以内で記述しなさい。

問2 筆者はプログラミング教育／学習の目標は「離陸」にあると述べ，主に教える側の立場から目標を達成するための方法について持論を展開している。これを一つの意見として参考にしつつ，学ぶ側の立場からどのような方法でプログラミングを学んでいくべきであるか，自分の考えを400字以内で記述しなさい。学ぶ対象をプログラミングだけに限定せず，数学などその他を含めて論じてもよい。

<国際教養学部 国際教養学科>

以下の問題【1】～【3】のすべてに答えなさい。

【1】 Read the following paragraphs and summarize it in Japanese in no more than 400 characters. Write your answer on Answer Sheet 【1】 (解答用紙【1】).

Everyone wants to be happy. And most people want others to be happy also – at the very least they want it for their family and friends. We also have other wants, which are quite specific – for income, health, freedom, appreciation, friendship and so on. But if we ask why these other things matter to us, we can always give some reason – for example that they will make us feel better. On the other hand, if we ask why it matters that people feel happier, we can give no further answer. Happiness is self-evidently good, and one can convincingly argue that other goods derive their value from the way in which they contribute to our happiness. So happiness is the overarching good.

But whose happiness? I obviously feel that my happiness matters, but everyone else feels the same about theirs. So it is impossible to argue that any one person's happiness is ultimately more important than anyone else's. It follows that the goal for a society must be the greatest possible happiness all round. Inevitably some people will be happier than others, but (as I shall argue later) we should take special care to raise up those with the lowest levels of happiness. Subject to that qualification, the goal for any society should be the happiness of the people.

So how should each of us live our lives? Unfortunately some people think there is no such thing as 'should'. But if you believe there is such a thing, then we *should* obviously try to produce the best possible state of society around us – in other words, the greatest possible happiness that we can.

出典: Richard Layard, *Can We Be Happier?: Evidence and Ethics*, Pelican Books, 2020. Chapter 1, p. 20.

(問題【2】に続く)

<国際教養学部 国際教養学科>

【2】次の文章を読み、その要点を英語(150 words程度)で解答用紙【2】にまとめなさい。

持続可能性とは、経済・環境・社会の三つの側面から好循環を起こすことで、私たち人類が繁栄し続けられる理想の仕組みのことです。そして、さまざまな対立を解消し、第3の道という希望を提示する際に用いられる言葉でもあります。

現代社会において、経済・環境・社会はトレードオフを起こしやすい状況にあります。トレードオフとは、何かを手に入れば別の何か失われる状況のことです。例えば、経済にばかり目を向ければ環境が破壊され、経済成長のなかで富が一部の人のみに集まることで格差が生まれ貧困などの社会課題が拡大します。

こうしたトレードオフの状況を解消し、さらにはシナジー(相乗効果)を生み出し、経済・環境・社会すべてが良い状態になることで、私たちは子どもや孫、またその先の世代までずっと繁栄し続けることができます。

……(中略)……

日本では持続可能性という言葉が環境と経済に関する問題において用いられることが多い一方で、社会に関する問題ではあまり用いられない傾向にあります。しかし、地球規模で持続可能性について考えるとき、社会はとても重要な構成要素です。

持続可能性という言葉が生まれた欧州においては、人間に関わるさまざまな権利が社会の中心にあり、それが脅かされないために、経済や環境に向き合う必要があるといった考え方が存在します。島国である日本と異なり、欧州は地域内での領土争いも絶えず、また国内でも革命が度々起こってきました。したがって、現代の日本人が感じている以上に、人権とそれにもとづいて形成される社会という関係性が重視され、現代社会におけるさまざまな概念の大前提として存在しています。

持続可能性も同様に人間の権利が中心にあります。……(中略)…… 私たちが考えている持続可能性は、あくまでも人間が中心にあり、人間が自由を勝ち取る、もしくは勝ち取った自由を失わないようにするために存在している概念です。そのため、持続可能性においても、社会という観点は経済・環境を議論する以前の大前提の視点になっているのです。

持続可能性について考える際には、常に各要素の相互作用を考える必要があります。……(中略)…… それぞれの要素を個別に考えてしまうと、各ステークホルダーが対立して合意が取れません。協調ではなく、最悪の場合、争いを生み出してしまいます。

歴史的に見ても、持続可能性はそうした対立を解消し、協調を生み出す際の重要なキーワードとして用いられてきました。対立の解消こそ、持続可能性という言葉に秘められた最大の効用だと考えられます。

(次ページに続く)

2026年度南山大学総合型入試[プレゼンテーション型] (第2次審査) 問題

「小論文」 時間 90分 配点 200点 (2025年10月18日実施)

<国際教養学部 国際教養学科>

★必要に応じて、以下の単語を参考にすること。

トレードオフ: trade-off (trade-offs)

シナジー: synergy (synergies)

ステークホルダー: stakeholder (stakeholders)、利害関係者を指す

出典: 平本督太郎 (2024) 「持続可能性とは? 三つの側面や日本の現状、私たちにできることを解説」
Asahi Shimbun SDGs ACTION、2024年。

<https://www.asahi.com/sdgs/article/15334056?msocid=0d98914d55466aa714e1857654f16b6e>

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる (26-0641)

(問題【3】に続く)

2026年度南山大学総合型入試[プレゼンテーション型] (第2次審査) 問題

「小論文」 時間 90分 配点 200点 (2025年10月18日実施)

<国際教養学部 国際教養学科>

【3】

【1】または【2】の文章に関して、日本語(400字以内)、または、英語(150 words 程度)のどちらか一方を選択して、自分の意見を論述しなさい。日本語で論述する場合は解答用紙【3-1】を、英語で論述する場合は解答用紙【3-2】を使用しなさい。論述に使用しなかった解答用紙には、受験番号以外、何も書かないでください。

【3】

Write your opinion about the articles in 【1】 or 【2】 in either Japanese (400 characters or less) or English (about 150 words). Use Answer Sheet 【3-1】 if you write in Japanese, and use Answer Sheet 【3-2】 if you write in English. On the unused answer sheet, make sure to write ONLY your examination number.

(問題はここまで)

- 解答用紙はすべて回収します。
- 試験終了時、解答用紙【1】、【2】、【3-1】、【3-2】の順に並べてクリップで留めてください。
- 問題用紙は持ち帰ってください。

発行：南山大学 入学センター

名古屋市昭和区山里町 18 番地

Phone : (052)832-3119

E-mail : nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp

U R L : <https://www.nanzan-u.ac.jp/>